

平成30年度 第1回小牧市地域協議会推進市民会議 会議録

1 開催日時 平成30年6月25日(月)

午後1時～3時

開催場所 小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

2 出席者

(1) 推進市民会議委員 20名

(2) 事務局 山田地域協働担当部長、協働推進課：入江課長、松浦係長、長屋

(3) 傍聴者 なし

3 会議資料

会議次第

小牧市地域協議会推進市民会議委員 名簿

小牧市地域協議会推進市民会議 配席表

資料1 小牧市地域協議会推進市民会議について

資料2 地域協議会の設立・活動状況について

資料3 地域協議会推進市民会議における協議事項について（平成30年度）

4 会議内容

1 委嘱状の交付

2 市長あいさつ

3 委員自己紹介

4 正副会長の選任

5 小牧市地域協議会推進市民会議について

6 地域協議会の設立・活動状況について

7 地域協議会推進市民会議における協議事項について（平成30年度）

8 その他

〔市民憲章唱和の後、市長から委員を代表して落合委員へ委嘱状を交付〕

【山下市長】

皆さん、こんにちは。

本日は、皆様方にはお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

地域協議会推進市民会議ということで、地域協議会の代表の皆様、市民団体の代表の皆様、公募委員の市民の方、学識経験者の方に委員を引き受けていただきまして、ご礼を申し上げたいと思います。

現在16小学校区のうち、6小学校区で地域協議会が昨年度までに立ち上がりまして、防災・防犯・福祉・子育てなどをテーマに部会を立ち上げて、いろいろと熱心に活動されていることに敬意を表したいと思います。

小牧市の地域協議会ですけれども、その必要性や意義等についてはご理解を頂いているものと思います。私が市長に就任するときの公約の一つに挙げていた事業ですが、この会議の前身である地域協議会市民会議の中で概ね小学校区単位での設立という方針を定めまして全小学校区で設立に向け動いているところであります。もちろん小学校区単位で進めていくことは課題がいくつかありますが、本市はこども夢チャレンジNo.1都市を掲げておりまして、子どもを中心に、親やお年寄りなど世代を超えて繋がっていくことが自然であろうと考えていまして、そういったことも踏まえて小学校区で進めていくこととしています。

本市では毎年概ね1ポイントずつ高齢化が進んでいる状況であり、市内全域で23.9%となっています。65歳以上の方が全市民に占める割合ということですが、これが4人に1人に迫っています。間違いなく数年後には、30%を超えてくるものと予測されています。将来的には日本全体でも人口の半分くらいが高齢者となる時代がやってくる中で、行政も高齢者・障がい者等の福祉の充実について進めていくところではあります。財政にも限りがあり、そのような中で行政がしっかりと守るべきところは守り、ご近所ご家族で支え合いの地域づくりをしていくことが重要と考えます。社会やライフスタイルの変化、価値観の多様化、核家族化や一人暮らしの増加等に伴い、いかに地域で支え合って助け合っていくかが一層重要な時代になってきています。そのような背景も踏まえ、新しい仕組みの中で支え合い助け合いの組織として地域協議会の設立を進めているのが現状であります。

そうした中で、小牧市内には129の区がありまして区長さん方に市の行政事務の一部を委嘱しており、区長さんにこれ以上の負担を強いることは難しいと思っています。

区の世帯数にもばらつきがありまして、大規模なところは1,500世帯を超えるところもあれば、4世帯のところもあります。老人会や子ども会もないなど、地域によって活動のレベルや実情が違うことや、役員のなり手不足から区の運営だけで手一杯のところもあるといった課題もあり、一つの小学校区でまとまって協議会として活動していくことに対して、理解を得られていないというところもあるというのが現状であります。私としては、引き続き区長さんに対して丁寧に説明をしていくつもりですし、やる気のある人が地域協議会に参加できるような組織づくりをして、区長さんに負担をかけることないようにしていきたいと考えています。

私が就任してから、何らかの形で地域内分権を進めて自治の組織を再構築していくという試みが全国的に見ても広がっています。各自治体においても、地域の事は地域で考えて責任をもって行動していくことが、重要であると認識していることと思っています。

後程、事務局から説明があると思いますが、地域協議会の活動については他市の例を見てもいろいろなレベルがあり、市として地域協議会とどう連携していくか、地域協議会をどう位置づけていくのかということや、地域協議会の期待される役割、地域協議会の活性化に繋がるような取り組みなどをこの会議の中で協議していただき、方向性を出すことができればいいと思っています。

市民の方が年をとっても安心して暮らせる地域づくり、支え合っているまちづくりを目指して期待をされている地域協議会を、いい形で発展していくように活発な議論の中でご指導とご支援を頂きますようよろしくお願いします。

皆様方にも、いろいろとご理解、ご協力を心からお願いを申し上げて、この会議を開催するにあたっての挨拶とさせていただきます。

大変お世話になりますけれども、どうかよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

なお、山下市長は、他の公務が入っておりますので、ここで退席とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

〔市長退席〕

〔各委員による自己紹介と事務局職員の紹介の後、委員の互選により会長に加藤委員、副会長に小柳委員が選任された。〕

【事務局】

それでは、新たに会長に就任されました加藤会長から一言ご挨拶をいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

【加藤会長】

改めまして、こんにちは。加藤武志と申します。

先程、市長さんからも事務局からも説明があったように、平成24年7月に発足したこの会議の前身である「小牧市地域協議会市民会議」があり、今回「小牧市地域協議会推進市民会議」ということで名前に推進という言葉が入って、新しいメンバーで始められるということです。

特に、今回委員になられたメンバーは、いろいろな立場でそれぞれご活躍の方だと伺っていますので、ぜひお力や新しい発想、アイデアをいただきながら、あと10校区の設立に向けてのお話と、地域協議会が既に立ち上がっている6校区についてはもっともっと元気に活性化していくようなお話を、この会議でアドバイスなり提案ができればと思っています。

そのご協力をお願いして、私からの挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

どうもありがとうございました。

それでは、以後の司会進行は会長にお願いしたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

【加藤会長】

それでは、最初にお配りいただいているこの次第に基づいて進めていきます。まず始めに、次第5の小牧市地域協議会推進市民会議について、説明を事務局からお願いします。

〔事務局から資料に基づき、説明〕

【加藤会長】

ありがとうございました。

これが今この会議について、これまでこうだったよということと改正点、それから制度についてのバックボーンをお話ししてもらいましたけど、合わせて、その次の次第6の地域協議会の設立・活動状況についても説明いただいて、その後でまとめてご意見などを伺いたいと思います。お願いします。

〔事務局及び各協議会の会長から資料に基づき、説明〕

【加藤会長】

ありがとうございました。

今2つ資料の説明をしていただきました。最初は、この推進市民会議について、それから2つ目は地域協議会の設立の状況だとか活動の報告をいただきました。

やっぱり現場での活動だとかお悩みだとかを聞くと、なるほどという感じがしたと思います。今会議室のレイアウトの席がちょうど2人掛けのテーブルになっていると思います。その2人でペアになっていただいて、一部は3人になっていただいて、まずは握手を軽くして、感想でもいいですし、ちょっとこういうところを聞いてみたかったんだけどということでもいいので、5分間お話しをしましょう。

〔5分間 意見交換〕

【加藤会長】

一応目安の時間になりました。本当はもっともっと話をしたいかと思いますが、5分間で少しお話をさせていただきました。

何か、やっぱり今の2つの議題についてご意見や、もしヒントのようなものが出たら、そのお2人又は3人のうち、どなたかが代表で少しお話をしてほしいですが、いかがでしょうか。

【深堀委員】

今お隣と話しをしていて、高齢者がパソコンを教えてほしいという要望が結構あるというので、盲点のように感じました。

篠岡小学校区はもう立ち上げて4年目になりましたが、そういう要望もあると聞いたら、それに対する活動にも繋げていけるのではと思いました。

【落合委員】

補足です。パソコンを教えてほしいという人数ですが、調査した要望の中で120件あったんですよ。その次に多いのが、身内の介護に対する不安を感じるというのが69件です。

【加藤会長】

ありがとうございます。

今、要望のあることについて人数を拾い上げてやっていくという話をしていたいただきましたけど、どなたでも結構です。いかがでしょうか。

【鳥居委員】

私たちは、防災の関係の内容で話し合いました。どうしても小学校区で地域協議会を立ち上げるということは、まさしく災害時に避難所を運営するという状況と一緒になるというような話をしていたんですね。

私自身も本庄小学校区の地域協議会の委員にもなっておりまして、地域協議会を進める意味というのは、災害時に皆さん一緒にならないといけなから、常日ごろ顔の見える関係をつくるのに、地域協議会はすごくいいということをお話ししておりました。だから、防災の視点であればすごくわかりやすいと思っています。

もう一点だけ、いいですか。

防災訓練をしているんですけども、今まで一般市民向けの啓発が多かったんですけど、この頃ちょっと言われているのが、「啓発だけでいいのか」と。ただ楽しむだけじゃなくて、「実際に災害が起きたらどうするんだ」ということを、自分たちの責任ということを感じながら、シミュレーションをやる必要があるんじゃないかなということで、次のステップに地域住民が向かっているのはいい傾向だと思いました。以上です。

【加藤会長】

ありがとうございます。

小学校区単位で地域協議会をやることとして、防災というのは非常にな

じみがいいんだと。それから、啓発だけじゃなくて、次のステップにという話をさせていただきました。

ほかのペアの方、もしくはトリオの方、こんな話をしたよということがあればいかがですか。

【上坂委員】

こちらで話したのは、はっきり言って地域協議会は一般的に住民に全く知られていない。宣伝ができていないということです。

例えば、本庄小学校区も役員が30人程度見えるらしいですけども、役員と一般住民と全く遊離してしまい、何をやっておるかわからない。

本庄小学校区で実施された防災訓練でもそうですけど、去年は300人来たようです。ところが、本庄小学校区の人口は10,000人以上おるんですよ。だから、300人で満足してはいけないと思います。そういうところが、まだまだやっぱり本庄小学校区地域協議会ができましたけど、周知には3年はかかりますね。

【加藤会長】

そうしたら、どうしたらいいですかね。その温度差を、遊離している状態を乗り越えるには、何かアドバイスとかありますか。

【上坂委員】

地域協議会として、60から65歳ぐらいの次の世代の人をどう育てるかということと、もう一つは、やっぱりそういう若手の人が興味を持つようなことをやっていく必要があると思います。

【加藤会長】

例えば、興味を持つこととは何がありますか。

【上坂委員】

例えば、レクリエーションじゃないですけども、テニスをやったり、あるいは畑をやっておる人も見えるし、ほかに旅行に行ったりね。そういうことも含めて、いろいろなことをいろんな角度から展開していかないと、ただ、地域協議会ですとやっておるだけでは恐らく広がらない。で

きても、なかなか進まないと思います。

【加藤会長】

じゃあ、またぜひいいアイデアをよろしくお願いします。ありがとうございました。

【一戸委員】

今上坂さんが言われたとおり、ちょっと知名度といいますか、「地域協議会って何」というのがやっぱりあります。地域協議会についての役割とか、何をやっているかということ、もっともっとくどいぐらい話をする必要があるのではないかなと思います。

【加藤会長】

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

【吉田（富）委員】

今、こちらの方との話し合いの感想と、私が思ったことを一言だけ。

私、サロンを立ち上げて活動をしております。また防災の関係もちょっと携わっているので、地区防災訓練にもいろいろと参加させていただいています。そういった活動の中で、防災や地区のサロンのこと、それから福祉のことについていろいろと情報が知り得てくるわけなんです。これはやはりひとつどこかで活動報告をしたいなと思いました。

陶小学校区でサロンの活動報告を行う機会を設けているというふうにおっしゃったことは、いろいろな情報を共有できる場として大変いいなと思うので、ぜひこの地域協議会というのは立ち上げたほうがいいと思いました。

だから、私は北里地区なんですけれど、北里地区の方でもぜひ地域協議会ができたらいなと思いました。以上でございます。

【加藤会長】

ありがとうございました。

じゃあ、こんなふうになるべく対話型で進めていきたいんですけど、何分、皆さん帰る時間が3時までと伺っているので、次の議題にちょっと入って、

またその後で少し対話する時間をとりたいと思います。

それでは、次第7 地域協議会推進市民会議における協議事項について資料3に基づいて、事務局から説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき、説明〕

【加藤会長】

ありがとうございました。

一応、これが今後何を話し合っていくべきかということで、資料3の本会議で協議することというのが皆さんに課せられたお題ということになります。

さっきのペアの人いますよね。伊藤委員が抜けられたので、ちょうど2人1組になっていると思いますが、地域協議会設立の根拠や位置づけなどについて条例などで明確にするのかという話を今後やっていくので、そこは触れなくていいです。こういう協議をすることについて、こういう進め方でやったらいいんじゃないかだとか、そもそも前提になるところがわからないだとか、そういう話だけペアで共有して、その後、みんなで協議をしたいと思います。

今度は3分間でお隣の人と、この資料3について少し意見交換をして、後で協議します。では、3分間の意見交換をお願いします。

〔3分間 意見交換〕

【加藤会長】

お約束の3分間経ちましたので、資料3は、主にこの会の進め方が中心だったと思いますけど、何かお二人で話してこうしたらどうだろうという提案でもいいですし、ちょっとこの資料の意味がわからないとかいうのも構いませんので、どこか挙手していただいたところにマイクを回したいのですが、どうでしょうか。

【小柳副会長】

実は、僕のところの桃ヶ丘小学校区で、同じ地区で大杉委員もいらっしゃいますけど、今やっておることは小学校区での防災訓練を380人ぐらい集めて、1回やりました。それから運動会も1,500人集まりました。サロンや、パトロールのような防犯活動もやっています。それぞれいろいろや

っていますけど、地域協議会という組織はなかなか作りにくいと僕自身が考えています。

というのは、やっぱりそれ以外の問題を抱えておりますので、そういうことが解決されれば、積極的に僕は校区の中で賛同者を得て、やればできんことはない。もう既にそれらしきものはやっておるんですよ。

【加藤会長】

活動はやっているということですね。

【小柳副会長】

活動しています。ですから、桃ヶ丘会館の花植えなどいろんな活動しているボランティアの方がいらっしゃいますので、地域協議会が立ち上がればその活動に繋げていけると思う。

そういう貴重な人たちを集めれば、恐らくかなりの部分の活動ができ、そのような活動をしていることによって地域の人も喜んでいただくということなんですけれども、私自身が一つの課題を持っていますので、それが解決できれば、積極的に進めないかかなというようなことを、自分たちはよう知っています。

【加藤会長】

ありがとうございます。小柳委員、ありがとうございました。

他に、お二人で話して、ぜひこれはみんなに提案したいとか、言っておきたいとかはないですか。

【鳥居委員】

私どもは、本当に真逆な立場の2人でして、うちの本庄小学校区は、さっき言った地域協議会が立ち上がった場所なんですけれども、宮嶋さんがお住まいの小学校区でまだ地域協議会が立ち上がっていないということで、何で立ち上がっていないのかということのちょっと話をしたときに、やはり皆さんが言われている温度差があるということは一つ問題なんですよ。

私どもの本庄は何で立ち上がったというところで、一つ上がっていたのが、ちょうど防災なんですけど、長年、合同で自主防災会の会長が集まって、防災の訓練をやっていたということがあって、たまたま温度差があり

ながらも、みんなでやらなければいけないという一つの目指す方向性があったということなんです。

もう一点は、お金なんです。一番大事だと思うんですけど、防災訓練をやるときに、やっぱり合同でやるときに、各地区でお金の分配という話があって、すごく細かく調整をしなくちゃいけない。とても大変だったということがあるんです。

地域協議会の話聞いたときに、みんなでまとまる組織なので、お金の面が割と今までやっていた合同の訓練よりは、簡易的に話が進みやすいということがあったもんですから、皆さんでやりましょうということと、やっぱり各地域の役員のなり手がいないということで、なかなか多くの会議に出られないということも難点としてあったんです。だから、ある程度人数を絞って、その会議体にこの人を入れるというように、人も削減できるし、会議数も減らせるということで、本庄小学校区は地域協議会を設立する流れになったということなんです。

【加藤会長】

なるほど、いいヒントですね。

【宮嶋委員】

市内16小学校区のうち14小学校区については、今年度小学校区での防災訓練というのが既に実施する予定で計画されていまして、残すところ2校区ということになっています。この地域協議会をつくる土壌としまして、まず防災関係で言えば、もう既に小学校区で学区防災訓練を取り組んでいるところがあります。

もう少し言うと、スポーツ振興会で小学校区の運動会も開催されていますので、土壌としては既にあるんです。あと、やっぱり小牧原小学校区の会長さんも言われましたけど、その上でさらに進めていくというのには非常に大変な苦労があるということで、それを共有しつつ、解決しながら進めていければ、何とかできるんじゃないかと思いました。

今日は、このような会議で集まって、また皆様が地元の区に戻るはずですので、何か集まる機会があればこういう話をしてきたよというようなことを伝えてもらうのも一つかと思います。以上です。

【加藤会長】

ありがとうございました。じゃあ、もう一組ぐらい時間があると思うんですけど、何かありますか。

【大杉委員】

全く今までのお話とは違うんですが、資料3の①、各地域における説明会、検討会の開催で、有識者の方や市職員の方が、「そうだ、地域協議会、我々つukらないかなあ、あるといいなあ、こうやってやりたいなあ」と思わせ、そういう動機づけになるようなお話をしていただけるのであれば聞きたいですが、どうなんですか。

こういうことが必要、ああいうことが必要じゃなくて、そういう人たちの心が動く。もう既に地域協議会として活動していらっしゃる方の役員さんの甚大なるご努力はよくわかるんですが、それは一般の住民の方から見ると、地域協議会を設立することは、これからまた負荷が増えていくと思うと思います。

それから、皆さんが頑張っている背景に、案外地域でいろんなことをしてみえる方が地域協議会の活動に参加していないと思います。要は、住民一人一人はつながっていくというようなものの視点の活動がないと、なかなか一部の方が一生懸命努力するだけで、いつまで続くんだらうかということに陥らないかなという気がしました。以上です。

【加藤会長】

では、事務局、現状として協議会を設立するときに説明会や検討会を有識者と職員さんとされていると思います。これに自信があるかと、みんなの気持ちを動かしているかという質問ですが、いかがでしょうか。

【事務局】

まず、有識者の方の講演会ということで、大体年に1回、2回ぐらい小学校区の方々に集まっていただいて実施しております。当初はなかなかご理解がいただけないのかなと考えていたところですが、現在は、その話を聞いた後にアンケート調査を行っております。そのアンケート調査結果の中では、「地域協議会の必要性がよく理解できた」だとか、「今後地域協議会が設立されたときには、役員として又は委員として参加したい」

というご意見も結構いただいている状況になってまいりました。

また、区長、民生・児童委員、保健連絡員、ボランティアの皆さんが集まるような場でいろいろと意見交換を行う際に、地域協議会の趣旨だとか、あと必要性などについて説明をしていただく中で、少しずつではありますけれども、参加された方からは必要性を理解していただけるようになってきていると思っています。

先程、少し認知度という話も出たんですけれども、毎年市民意識調査というものを無作為抽出で3,000人の方々を対象に行っているんですけれども、地域協議会を知っている方の割合が平成27年度は13.2%、平成28年度が13.3%で、平成29年度につきましては、16.3%です。今回3ポイント余り上がりまして、だんだん認知度の方も上がってきていると実感しているところであります。

さらに、区長さんだけではなく、区長OBの方だとか、地域のさまざまな分野で活動していらっしゃる方々に声かけをしていきまして、地域のリーダー的な人材となる方々の掘り起こしを行っています。特定の方だけではなく、役割分担等を進める中で、地域協議会の活動に対する負担感をできるだけ少なくして、その設立に向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、またご協力をよろしくお願いしたいと思います。以上です。

【加藤会長】

ありがとうございました。

じゃあ、もうお帰りの時間が近づいています。今日は第1回目の会議なんですけど、かなりおもしろい状況が見えてきたと思っています。

一つは、やっぱりいろんな活動の中で、地域協議会を立ち上げることでなじむものや、解決できそうなことがあるのは、みんな何となくわかっているんだなあということ、それから、その元になる活動とか、そういう活動をしている人だったり、活動の種のようなものはあると思います。ただそこに、様々な組織や一般の人との関わり、認知度、業務の負担感の解決だとか、あと区との問題などといった大きな課題がそこに横たわっているというお話がありました。

一応この会は、この資料3に記載されている地域協議会設立の根拠や位置づけ、その内容や項目について考えるということなんですけど、じゃあこれを考えたら、さっきの問題は解決するのかというと、それはまた別の

問題だと思うんです。

なので、これは私から皆さんへのご提案ですけど、できればなるべくもう少しさっきの生々しい話というか、実際知られていないんじゃないかなとか、どうやったら入ってもらえるんだろうとか、じゃあどうしたらそれが解決できるかという提案をみんなで紡ぐような場にできたらいいと思います。その上で、行政としては答えが欲しいと思うので、その答えと両方併せて考えていけたらいいかなと思っています。

なので、僕からの提案は、この口の字型の会議は距離が遠いので、もうちょっと距離感が近くなるようなお話し合いができるようなことを、事務局ともうちょっと相談してみますので、2回目以降はもう少し皆さんが主役になって話せるようにできればと思っています。

一つだけ約束してほしいのは、そのために、批判とか要求じゃなくて、こうしたらどうなんだろうという提案型で、ぜひ第2回の会議に臨んでいただけたら、よりよい会議になっていくと思います。

ふつつかな司会でしたが、お返しをして締めていただこうと思います。

それでは、事務局に次第8その他と会の締めと併せてお願いします。

【事務局】

では、事務局から次第8その他についてですが、次回以降の会議の予定でございます。

まず、第2回の会議につきましては、一月後の7月25日水曜日の午前10時から、第3回は8月28日火曜日午前10時から行います。第4回の会議は10月31日水曜日午後2時になります。それぞれ会場は記載がございませんので、近づいて参りましたらご案内をさせていただきます。日程を空けていただきますよう、よろしく願いいたします。

その他については以上です。

【事務局（地域協働担当部長）】

本日はいろいろ貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

私どもとしましては、この会議で先程申し上げました認定制度についても、ぜひご協議いただきたいと考えております。現在は、関係する全ての区の承認を得て、設立総会を行い、地域協議会として成立というような形

で進めておりますが、今後もそういう形でいくのかどうかを含めて、別の方法でも認定していけばいいのではとか、その辺りにつきましてもご協議いただきたいと考えております。

先程、3つの地域協議会の会長さんから活動報告がございましたが、段階的に少しずつ活動が充実していくということでございますので、そういった活動の活性化に向けたステップアップの仕組みも、制度として位置づけていくのがいいのではないかと、そういった議論も併せてお願いしたいと思っております。

サロンのお話が吉田委員からもありましたように、今全ての小学校区に最低1つはできております。サロンの活動を今後もっと広めていくには、小学校区でまとまっていただいて話し合いの場を持っていただくというのではと思っております。話し合いをする中で、例えば小学校区内で毎週1回サロンの開催ができるようになるとか、またメニューもいろんなメニューができるようにするだとか、小学校区にお住まいの方であれば誰もが校区内のサロンに参加できるようにしていくという形を目指すとか、いろんな展開ができるんじゃないかなと思っておりますが、今後いろいろと議論していただければと考えております。

いずれにしても、この地域課題というのは非常に幅広くて、どういったことを話し合おうかということが問題になると思うんですけれども、やはり地域の方が生活をしていく上で、いろいろな問題があるということを一つの協議の場で話し合ってもらったことが重要であると考えております。

引き続き会議が予定されておりますので、今後ともご協議のほどよろしくお願いをいたします。本日はありがとうございました。

【加藤会長】

では、今日はお疲れ様でした。ぜひ隣のペアの人と握手をしてお別れをしてください。どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。